

メディアを活用した異年齢交流や幼小連携ができるのでしょうか。

保育の中での異年齢

異年齢保育では、主に年長の子どもたちが小さい子どもたちを思いやり、様々な内容を教えることで成長します。また同時に、小さい子どもたちはお兄ちゃん、お姉ちゃんの様子から大きく成長することへの期待を持ち、さまざまな学びを経験します。メディアの活用は、もちろん異年齢集団でも可能です。保育現場では、機器の操作だけではなく、「順番を守って使う」といったルールやマナーについて、年長の子どもが年少の子どもに教えるという活動も考えられるでしょう。

それだけではなく、家庭での使用状況によっては、今までの異年齢保育とは違い、年長の子どもが年少の子どもから学ぶという活動も見られることがあります。いつもと違うこのような経験は、年少の子どもにとっては、とても嬉しい経験になることでしょう。

メディアといえば、パソコンだけではありません。オーディオ機器やテレビ・ビデオなども含まれます。たとえば、CDやビデオを活用して、異年齢集団で身体表現を楽しむ活動は、同年齢集団のみの身体表現とは違い、お互いの身体の発達を思いやりながら表現するような心の発達を促すことでしょう。

幼小連携の活動

幼稚園・保育所の中だけの異年齢集団の活動からさらに発展させて、幼小連携の活動の1つとしてメディアを活用した保育を計画することもできます。小学校のパソコン教室で小学生と一緒にパソコンを使って遊ぶという活動も考えられます。また、実際に学校に出向いて行くことができない時には、小学校の子どもたちとのビデオレターでのやりとりも楽しいでしょう。

地域などとの連携

また、近所の中学校の技術・家庭科で中学生がパソコンを活用して作った絵本や紙芝居などを見せてもらう体験も考えられます。中学生にとっては、情報分野と保育分野の勉強になり、子どもたちにとっては、市販のものとはまた違う、思いのこもった作品を見ながら、中学生と話したり遊んだりすることができる機会になります。同様に、高等学校との連携も考えられます。



ビデオレターによる交流：運動会に向けて、自分たちの組み体操を小学生のお兄さん、お姉さんに見てもらったよ

幼稚園教育要領 第2章 ねらい及び内容 「人間関係」 1 ねらい

- (2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

第3章 第1 2 特に留意する事項

- (5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。

保育所保育指針 第3章 保育の内容 1 保育のねらい及び内容

人間関係⑩ 身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。